

URBAN-REPORT

<https://www.urbankk.co.jp>

発行人 アーバン企画開発グループ 三戸部 啓之

アフターコロナ・5 類引き下げによる社会の変化

2023年5月8日より、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが2類相当から5類相当へと引き下げられました。5類への変更には慎重になる意見もある中で「科学的な前提が異なる状況になれば、ただちに対応を見直す」という条件付きでの発表でしたが、これを機に感染予防行動の強制力が弱まり、息をしやすい方もあるのではないのでしょうか。今回は社会の動きや業種別の感染予防対策に関する変化についてお話しさせていただきます。

まず初めに、2類から5類への位置付けの移行により生じる変更点についてですが、厚生労働省から公示されている内容は下の図になります。

新型インフルエンザ等感染症(2類相当)と5類感染症の主な違い

| | 新型インフルエンザ等感染症 | 5 類 感 染 症 |
|------|---|--|
| 発生動向 | <ul style="list-style-type: none"> ・法律に基づく届出等から、患者数や死者数の総数を毎日把握・公表 ・医療提供の状況は自治体報告で把握 | <ul style="list-style-type: none"> ・定点医療機関からの報告に基づき、毎週月曜日から日曜日までの患者数を公表 ・様々な手法を組み合わせた重層的なサーベイランス(抗体保有率調査、下水サーベイランス研究等) |
| 医療体制 | <ul style="list-style-type: none"> ・入院措置等、行政の強い関与 ・限られた医療機関による特別な対応 | <ul style="list-style-type: none"> ・幅広い医療機関による自律的な通常の対応 ・新たな医療機関に参画を促す |
| 患者対応 | <ul style="list-style-type: none"> ・法律に基づく行政による患者の入院措置・勧告や外出自粛(自宅待機)要請 ・入院・外来医療費の自己負担分を公費支援 | <ul style="list-style-type: none"> ・政府として一律に外出自粛要請はせず ・医療費の1割~3割を自己負担 入院医療費や治療薬の費用を期限を区切り軽減 |
| 感染対策 | <ul style="list-style-type: none"> ・法律に基づき行政が様々な要請・関与をしていく仕組み ・基本的対処方針や業種別ガイドラインによる感染対策 | <ul style="list-style-type: none"> ・国民の皆様の主体的な選択を尊重し、個人や事業者の判断に委ねる ・基本的対処方針等は廃止。行政は個人や事業者の判断に資する情報提供を実施 |
| ワクチン | <ul style="list-style-type: none"> ・予防接種法に基づき、特例臨時接種として自己負担なく接種 | <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度においても、引き続き、自己負担なく接種 ○高齢者など重症化リスクが高い方等：年2回(5月~、9月~) ○5歳以上のすべての方：年1回(9月~) |

実際新型コロナウイルス感染症にり患した場合における対応については少々不安が残る状態ではありますが、一番身近な問題で窮屈に感じていた感染予防対策(マスク着用・手指消毒)は強制力が低くなっています。実際に外出先でも、マスクを着用していない人を多く見かけるようになりました。「マスクをしていない人」に対する周囲の人々の目も、いくらか厳しさが和らいできたとも思います。

では次に、前述の政府からの変更を受けて、社会はどのように変化をしているのでしょうか。感染対策に大きく影響があると思われる飲食業、感染が懸念される可能性が高い映画館から1企業ずつ抜粋した2件をピックアップして移行後現在の対策方法をまとめてみます。

①マクドナルド <飲食業>

- ・従業員のマスク着用

(変更前) 基本的に着用する → (変更後) 個人の主体的な選択を尊重し個人の判断に委ねる

- ・アクリル板などの飛沫防止シールド

(変更前) 注文カウンターや客席に設置 → (変更後) 設置の終了、回収

②TOHO シネマズ < 娯楽業（映画館） >

- ・従業員のマスク着用
（変更前）基本的に着用する→（変更後）個人の判断に委ねる
 - ・劇場入口・ロビー等へ消毒液を設置
 - ・劇場内の空気が外気と入れ替わる空調システムを使用し、法律に基づいた換気実施
 - ・釣銭は手渡しせずキャッシュトレイにてやり取り、入場チケットも目視にて確認
- ※ 上記の3点については、5類移行後も継続して感染対策を行っていく



今回レポートに取り上げるにあたり、様々な企業のホームページにて告知されている感染対策を目にしましたが、どの企業も「従業員のマスク着用は個人を尊重しその判断に委ねる（任意とする）」という内容が多く見られたように思います。弊社でも他業種と同様、以前は基本的にマスク着用を推奨していましたが、5月8日以降は事務所内での着用が任意となっております（接客対応時は原則着用です）。

一方マスクと言えば、当たり前に着用するようになってから、ファッションアイテムとして豊富な色や形、マスクにつけるアクセサリといった付帯商品まで発売されるようになりました。InstagramやTwitterのようなSNSでも、マスクを取り入れたトレンドの記事が多く見つかります。

着用が任意となった現在もファッション感覚でマスクを着用している人にとっては、今後は「感染対策」ではなく「コーディネートの一部」というニュアンスを一層強めてマスクを着用しているように思います。また、ビジネスシーンで見かけるマスクは、白・ベージュ・グレーが目立ちます。これも、自然と当たり前になってきたビジネスマナーなのかもしれません。

さて、弊社ではマスクルールの他に、事務所内の各席に設置されていたパーテーションを外し、社員間の会食に関する人数制限も一旦撤廃。さらに、先日はオーナー様をご招待するバスツアーも4年ぶりに開催されました。新型コロナウイルス感染症が流行してから入社した私たち社員にとっては、今後はオーナー様、その他取引企業をはじめ、他の社員たちとも顔を合わせる機会が増えることとなりますので、より交流を深め信頼関係を強固にしていくことが出来ると期待しております。

新型コロナウイルス感染症が完全に収束したわけではありませんが、このように社会は一足早く以前の感染症に過敏ではない日常生活へと戻りつつあります。私も通勤途中、電車に乗っていない間の屋外ではマスクを外す時間が少しずつ増えてきました。

不動産業界もまた、このコロナ禍で急速に発展したオンラインツールを今後も積極的に利用する事で、内見や重説のために来店する必要がなくなりました。様々な事情を抱えた来店が難しい方や、遠方からのお客様とコミュニケーションを取りやすくなることで、より多くの方々と出会うことが出来るようになったと思います。

日常を送る中でも感染する危険性があることを忘れることなく、それを踏まえてコロナが発生する前の生活に戻ることを目標としながら、新日常になりつつあるオンラインツールを通じた対人コミュニケーションスキルを向上させ、かつ感染対策を徹底して過ごしていきたいと思います。

法人営業課 松田 明莉

【出典資料】

厚生労働省<新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行後の対応について>

<https://www.mhlw.go.jp/stf/corona5rui.html>

マクドナルド<新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行に伴う対応について>

<https://www.mcdonalds.co.jp/company/info/230502a/>

TOHO シネマズ<新型コロナウイルス感染予防対策の終了、並びに基本的な感染対策について>

<https://www.tohotheater.jp/news/gorui20230508.html>

